

★神戸で生れた知香流五十周年記念に

花の道・人の道

知香流成瀬香桜(宗家)香梅(三代家元)さんを訪ねて

「人はだれでも花を見れば気持がなごみます。おとこであろうと、おんなであろうと、また、老人であれ、子供であれ、花を愛する心にかわりはありません。

それは、花がすべての人のものだから。さまざまなしごとの場、さまざまなくらしの場、その中に生きるお花をと、ねがい続けてきた五十年でした」

と、語るのは、知香流の宗家成瀬香桜さん。今年七十才とは見えぬ品のよい若々しさ。

神戸で生れた知香流が五十年を迎えて、その記念花展と、三代目家元香梅さんの新しい誕生を祝っての催しが十月二十九日と三十一日の三日間相楽園で開かれた。

出瓶数は百二十点、古典花コーナー、モダン花コーナ



灘区深田町の知陽庵で左から成瀬香梅(家元)・香桜さん(宗家)



紅梅の扇に松と竹・百合根をそろえてお弟子さんを指導する香桜先生（左）

に分けられた会場は、棚席や障子をバックにレイアウトされて、盛物でユニークな知香流の特色ある作品が並んで、一つ一つが楽しめる花の宴であった。

「私が、天真古流正派の家元をお受けしたのが昭和二年二十八才の時ですから、月日の流れは早いものですね。ぜひお花の出来る人をとという高級船員だった夫のもとへ嫁いだのですが、知香流盛物の開眼も、今は亡き夫のおかげです。

家元後継者になった時も、欧州航路から帰った夫は、『日本の華道は外国にない立派なものだから大いにやるべきだ』と励ましてくれました。また夫が病氣のため白浜で養生し、当時の金山村湯崎という漁村で、釣りに明

けくれる二年の生活を送った時、私はいけばなで糧を得ることに精一ばいでしたが、夫は、海辺の石や、貝殻がへばりついた流木、枯木など花屋では求められない素材を集めてくれて、知らず知らずの間に「新しい花」への道を拓いて行けたのだと思うのですよ」

床の間や、立派な飾り棚にいける花は多いけれど、例えば台所の片すみにいけるには、周囲のナベやカマ、電気器具に調和すること、市場から帰って、買物カゴからとり出された野菜や果物をありあわせの皿に盛る。即興的だけど格調高さを失わず生活にうるおいをもたらす花。

計算だけで整えられない、素材の調和、道具と花との調和、古典と美術の調和を求めるのが知香流盛物の世界。そしていけばな、もりのものをする心は、人と人との調和・社会の調和、世界の天地陰陽の調和にまで拡がる豊かな花の道・人の道になると、ハーモニ・アートを主張される香桜さんです。

「どんなものでも、何でも使ってできるので拾い屋さんにならなきゃいけない（笑）枯れたものや、ドライフラワーでもいいのですから、調和さえうまく考えれば、花ものでも、料理でも、服装でも、人と人とのおつきあいでもうまく行くと思うのです。しょうもないと思うものでも生かしかたによつていい盛物になる。だから人間でもしょうがないといわれる人でもいいところをのばせば見違えるようになるのではないですか」

香桜さんの咲かせた花は、全国的に、世界的に拡がり、ご子息の成瀬薫香夫人である香梅さんが、このほど家元をうけつがれ、お嬢さんの香豊さんが副家元になられた。神戸から日本へ、世界へとインターナショナルになった知香流をになう香梅さんは

「お花は昭和十三年からですよ。女学校は長崎で、楽しんでやってたんです。私、花が好きなんです。種を買って来てまいて咲かせることも。やってるうちに終戦後初めて知香流の名を知って、やりだすと面白いのです。主人と結婚しまして、とうとう三代目の家元を襲がせて



相楽園での50周年記念に右は香桜宗家・山田無文師・一人おいて家元香梅さん

いただくことになって、楽しいってことより責任が重いですね。知香流は面白いですよ。花、投入、盛花、盛物と四つに分れるけれど特に盛物が面白い。やりはじめる食べることもわすれるぐらい……(笑) あっこれは盛物で行けそうだなとひらめくともうたまらないですね。まあ普通の生花ですと、花器が固定されているだけに花の動きが少いですが、盛物は花にそえる「物」によって動きがでてくるのです。

——海外へよく行かれていかがですか？

「外国へ行っても、この国はどのような特長のものがあるかと、まず見るので、各国へ行くほど興味がわいてきますね。」

ヨーロッパへ二回、アメリカ三回目ですが、やはりヨーロッパがいいですね。生花インターナショナルの支部が沢山ありますから、今度も、それらの支部訪問と、知香流の支部訪問をして来るわけです。

花にいろいろ道具をそえるというのは外国の方は楽しんでですね。むこうの方はむこうのものを沢山あつめて来られる訳ですよ。それをどうこなしてもらえるかという楽しみがあるようです。日本でも、投入、盛花の各々のお流儀をおさめた上で、知香流が面白いというのでよく教えてほしいといわれる。ナイショでなんていわれませんが、そんなこと隠す必要ありません。外国だと一人で、四流、五流持っている人はザラですよ。いいところをとるのが上手だから日本が最後に負けてしまったりするんでしょうね。だからスケールを大きく持って、いいものはいいと考えることが大切ですよ。私などはどこの国の人であろうとどんな人であろうと一つになって楽しむわけね。

見る人によると道具をいろいろ使うので知香流はゼイタクだといわれるけど、手近かに置物でも何でもあるので、それを使えば花代は三分の一の値段ですむのですから……(笑) だけど、一応基礎の、投入れや、盛花をやった上で盛物をやらないといけませんけどね」

——神戸で生れた流儀なんですが、風土との関係は？
「まず近くに、山あり海ありだから、知香流にとって、素材が多いので何よりですね。神戸は大好きで、一生この六甲の地で終りたい(笑) 六甲山の上から下を見降しているいろいろアイデアを考えると、とても素敵なヒントが浮かびます」

オリジナルが生まれる町神戸で育かれた知香流の「華道は生活とともに」という市民感覚が、これからも多彩に、奥深く真価を発揮することを期待したい。

★知香会本部／知陽庵／神戸市灘区深田町二丁目五五

TEL 八五一八一一三

Ein gutes neues Jahr !

ドイツで生れ
日本で育った
ドイツ菓子 ユーハイム



ドイツ菓子

Falkeheim's

ユーハイム

本店 三宮生田神社前
TEL (331) 1694
三宮店 三宮大丸前旧市電筋
TEL (331) 2101
さんちか店 三地下
スイーツタウン
TEL (391) 3539
心斎橋店
TEL 06 (252) 0925

謹 賀 新 年



新しい春の装いに
日本の美しさを創る北村パールを

北 村 真 珠 店

元町通 2 丁目 60 TEL. 331-0072



くらしのプラン 〈2〉

セントラルヒーティング アドバイザー Q. & A.

坂田 寛さん (協和ガス住宅設備機器 KK取締役技術部長)

Q. セントラルヒーティング (以下CHに略) については随分ご研究なさっているそうですね。

A. まだCHという言葉が一般化しない頃から、外国の文献など好きで親しみ、ガスによるCH第一号の設計施工の指導をいたしました。幸い今でも良い設計だといわれて喜んでいます。

Q. CHを設計する場合どんなことに注意されますか？

A. まず、お客様のご希望の真意を自分の先入観を入れず理解することです。「暖かい」

「暑い」「充分」などという言葉も十人十色のニュアンスがあるので、お客様の家族構成や将来のお子様の成長、ご主人または奥様のご職業まで考え、その上予算の関係を合せて、何を生かすかなど、お客さまが決定しやすいよう専門家としてのレベルの高い助言ができなくてはならないと思います。だから私たちは「住い」に関する知識も必要なのです。

Q. 例えば？

A. お子様を将来、音楽家として成長されようとしている場合など、暖房は静かな上に静か、また湿度の楽器への影響などの配慮が必要ですし、また各建築材料及び工法、音楽なども他の専門家と話し合える知識が要ります。

★セントラルヒーティングのご相談は

神戸市東灘区住吉東町4ノ7ノ16 協和ガス住宅設備機器株式会社 (078) 851-9321 大阪市北区梅田町46 大阪営業所 (06) 345-8560

佐藤精二さん (協和ガス住宅設備機器 KK大阪営業所長)

Q. 最近のセールス方法はどんな様子ですか？

A. 今までのセールス方法は「風がふいたら桶屋がもうかる」

でもそんなコジツケとイイノガレがコツだといった時代は去って、私共の会社では、二年半前セントラルヒーティング部門を独立させてからは新しいセールス方法をとっているのです。

セールス担当者は、専門知識ばかりでなく、全ての知識、感覚、広い視野を養い、経営者、専門家、家庭の主婦など多方面の方々が、気安く相談ねがえるように心掛けてきびしい研修を行なっています。最近では、電話で「ちょっと来てくれ」といったお客さまも多くなり、うれしい悲鳴もしばしばです。

先だっても会社見学にお見えになった他業者の方が、研修の様子をご覧になり「売上げ連続第一位の理由がわかったような気がする。早速うちでも……」といっておられました。もちろんこれは、おだてていただいたものと思っていますが、ねらいだけは間違っていなかったと喜んだ次第です。

風がふいたらガス屋がもうかる」時代は程遠いにしても寒さに向かってますますはりきっている昨今です。

★読者のみなさまもCHに関するいろいろな質問がありましたらご連絡なり、おハガキを編集部あてお送り下さい。

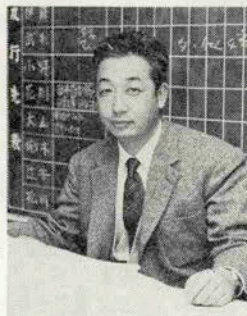




写真 上 森の中に旧山邑邸が見える
中 芦屋川
下 芦屋川下流

阪神間の住宅地環境を育ててきた基礎に、川沿いの緑があります。その緑のなかに、芦屋の街の公共施設が建ち並んでいます。

夙川は、木もこんもりしていて、山から海まで見渡せませんが、芦屋川は、一気に見とおせます。阪急電鉄芦屋川、阪神電鉄芦屋の駅のホームの上に立って、山と海を見渡して、四季のうつり変わり、天気の良いし悪しを日々感じる楽しみは、皆さんご経験のとおりです。

もし、この芦屋川の緑がなくなったら、どうでしょう。芦屋という住宅地のイメージと環境は、ガタ落ちです。芦屋川の緑あってこそ、山の住宅地の開発と海の住宅埋立地造成がバラバラのものでなく、芦屋の街を一体にしてくれるのです。景観としての一体感をつくり出すだけでなく、住宅文化都市としての歴史、即、その時間的経過もつないでいます。芦屋川の水に臨んだ近代以前の集落—精道村の歴史、郊外住宅地を形成する核となった国鉄・阪神・阪急などの鉄道、戦前・戦後を象徴する阪神国道、第2阪神国道など、すべてこの川の緑で結び重ねられているのです。そして、また、そこに、その各時代の街の活動を代表する建築物が配置されています。

山の緑の足もとのライト設計の旧山邑邸、芦屋の浜のかつての環境をしのぶことが出来る浜芦屋町のいくつかの大邸宅、現代都市としての発展を支えてきた旧精道村の村役場や現在の市庁舎、文化住宅都市の精神を創造する市民会館、などです。山の足もとの緑のなかのかつての外来文化の殿堂—山邑邸に対応して、海の地先に、国際社会—世界へ向う日本文化の核が、……といった蓄積を可能にする都市軸です。

〈水谷顕介〉

神戸のアーバンデザイン ⑤⑧
景観と時間の都市軸—芦屋川

水谷顕介＋チーム・UR

芦屋川に松の森に覆われ小さく張り出した尾根があります。この森から潜水艦の艦橋のように立っている建物が見えますが、これが1918年に建てられた旧山邑邸（現淀川製鋼独身寮）です。風化した岩の急斜面の地形に合わせて建てられた建物は敷地に近づくとも樹木の為に見えなくなります。樹木のアーチをくぐり抜けると、そこだけ木立が切れて明るくなり、石を彫って造られたフラワーボックスが目に入ります。これが玄関ポーチです。多孔質で軟い大谷石に幾何学的レリーフを彫み、一見石造に見えます。石の柱や壁に組み込まれた木の窓には丈夫なブロンズの金物を取り付けられたり、大きな硝子や飾の付いた建具が嵌込まれています。現代は規格化と大量生産の時代ですが、これだけのデザイン密度と石工達に依る建築と環境を造る事が出来るでしょうか。この建物は米国の近代建築の巨匠である故ライト設計によるもので旧帝国ホテルの設計と管理の為に来日していました。彼は多くの住宅を設計した建築家で山邑邸は日本に残る唯一の住宅です。住宅は個人の生活が営まれる場所であるので、建物が完成されると住人と個人的な知人でないと住宅には入れなくなります。その事はホテルや公会堂のような公共性のある建物と異なり無名のものになり、近くで住んでいても知らないで過してしまいます。芦屋の風景になっているこの建物を壊す計画が進んでいます。過去の文化と歴史の積重ねが、町の文化を形成して行くと思います。

現在は古いものや自然を壊し新しいものを造ることに依り成立っている経済ですが、何を残し又何を新しく加えて行くかを考える時だと思います。
〈武田則明〉

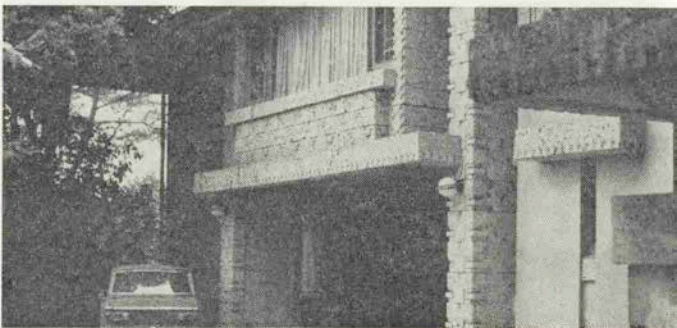
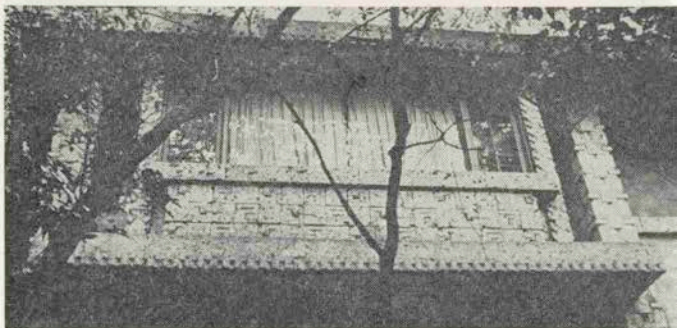
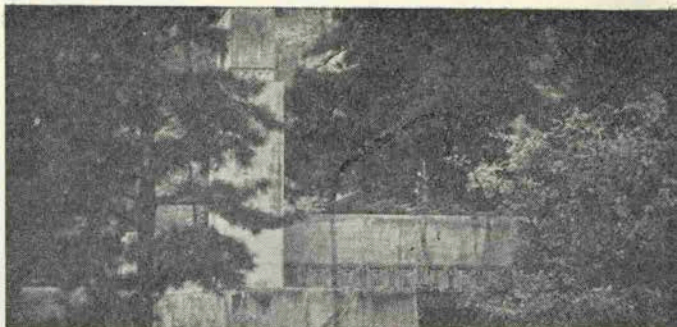


写真 上 ライト設計の旧山邑邸
中 幾何学的レリーフが彫まれている
下 玄関ポーチ

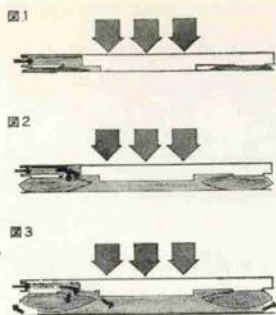
★技術ジャーナル ⑤7

エア・パレット

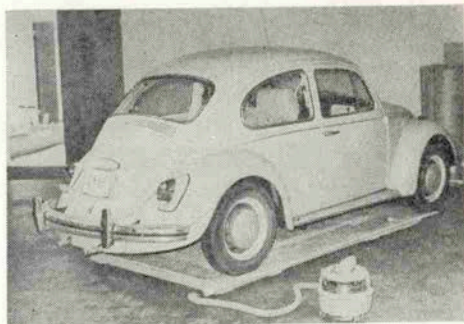
諸岡 博 熊

〈阪神外貿埠頭公団工務部長〉

アーサー・クラークは『未来の思想』のなかで、GEM（格蘭ド・エフェクト・マシン）の可能性を述べていたが、それは、交通機関としてドーバー海峡に実現していることはご承知のとおりである。——ホーバークラフトなる商品がそれで、英国の一手製造となっている。このうち、騒音の少ない「サイレント・ホーバー」は、米軍がベトナムで軍用に使用している。一方、一般土木用としては泥湿地での工事用台船として活躍している。いづれも下方に空気を吹きつけて地面または水面との間に数センチの空気膜をつくり、その間のマサツ抵抗を減少して、本



フォルクス・ワーゲン車（自重約九〇〇キロ）をエアパレットで簡単に持ち上げたところ（低圧空気の供給は家庭用の電気掃除器から）



体の移動を容易にしようとするものである。

× × ×
重量物を移動させようとする場合、このような空気膜をうまく利用すれば取扱いは簡単となる。したがって、クレーンなどの高価な移動設備が不要となるということも誰れでも想像のつくことであろう。

このたび日本のK社が、ジャンボ・ジェット機製造で有名なアメリカのボーイング社が基本特許をもつ「エア・パレット・システム」を技術導入した。

このエア・パレット・システムは運搬しようとする重量物をフロ

ア面から圧縮空気で浮上らせ、最小の力で移動可能とするものである。このシステムは、空気膜を生み出す環状のエア・キャスターと荷台となるパレットが主体で、さらに低圧の圧縮空気供給器が付属して一組となっている。

原理は圧縮空気を注入し（図一）キャスター・チャンバーが膨張、荷物を持ち上げ（図二）さらに、チャンバー内と空間部に送り込まれた全空圧力が荷重に打勝ってエアキャスターを押し上げたとき、荷物をのせたパレットは床から浮き上る。（図三）これは、パレットとフロア面に〇・二五ミリの空気膜ができるためマサツ抵抗が減少し、荷重は千分の一となる。したがって、一人の作業員が五十トンの荷物を簡単に移動でき、かつ自由な方向性と無重力的な移動が実現できることとなる。

× × ×
このパレットの特長は、低床、低揚程で重量物や背の高い荷物の運搬に際し横移動力がきわめて少ないことであろう。したがって、ボーイング社では、製造工場の建家を小さくして、大量の生産が容易になったといわれる。ただし、滑らかな床面の場合のみ最大の特長が発揮できること、偏荷重にならないようにすることに注意を要する。



72まいしょっぷ

あけましておめでとうございます

播州平野にもトタン屋根の農家が
グッと増えてきた。

最近、国道29号線沿に建つ
ワラブキの家

見る人に自然の素材が持つ優しさ
美しさ・居心地の良さを思わさず
にいられない。

インテリアは屋根の下に溶けて息
づき広場を満たす。

入船K.K建築・家具装飾施工
内部設計(高地 洋)

ドライブイン 水 車



FUGETSUDO

ゴーフル

何げなくとり出すこの一枚に

40年の苦心の味が

秘められています

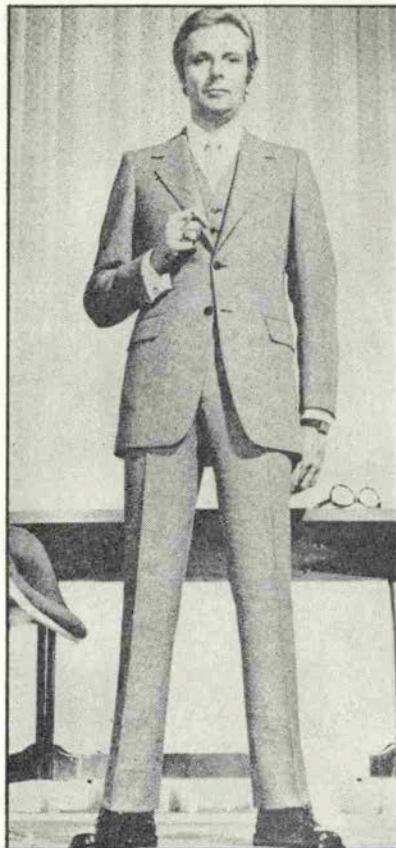


神戸にそだって70年

 風月堂

元町3丁目 TEL391-2412~5

さんちかスイーツタウン TEL391-3455



’72 謹賀新年
エクセレント・ジエントルマンへの夜明け

O-SHIBATA

柴田音吉洋服店

神戸・元町4丁目南 神戸341-0693
大阪・高麗橋2丁目 大阪231-2106

●1972年に期待する●

神戸っ子フレッシュクリエイター

選考座談会

□出席者・順不同

小島輝正 赤根和生 柴田 仁 佐野漣 箕伊藤 誠 富依幸雄 寺井昭子
〈神戸大学文学部教授〉 〈美術評論家〉 〈音楽評論家〉 〈神戸新聞事業局長〉 〈神戸新聞事業部長〉 〈神戸新聞学芸部〉 〈神戸労音〉

編集部 本誌では一九六八年の十月に第一回神戸っ子フレッシュマン選考座談会を行いました。それから万博を経て約三年、いろいろ活躍された世代の展望、活躍し始めたフレッシュマンについて、各分野毎にお話しいただきたいと思います。

★造形にめざましい若手の活躍

——美術部門

A 万博というチャンスが、一部の造形家にとっては大きなチャンスでもあったわけですが、万博によって、テクノロジーを基盤にした現代芸術の面が非常に大きくクローズアップされたのですが、その反動みたいなものがかなり強烈に出て来ている。いわゆる「貧しい芸術」と呼ばれるコンセプトチュアル・アート(觀念芸術)ですね。

この系統の三〇歳前後、働き盛りの河口龍夫(前出)とか、二四、五歳の植松奎二、田中勲などがコンクールにどんどん入って来る。奥田善己(前出)も今年「箱根の森現代彫刻展」で受賞しました。また斎藤智も現代美術展やジャパン・アート・フェスティバルのコンクール部門に入っています。ですから若手で神戸に非常に重要な人たちがたくさんいると思います。

C 新しい人たちの傾向は？

A 今迄の造形を支えていたものを

を根本的に否定したところから出発している。環境意識もその一例です。環境という言葉にもいろいろ促え方があるわけだけれど、物質に結びついた環境、現代のテクノロジーをふまえたものは万博で頂点に達した。その反対に環境というものを固定的に促えず、物質と人間との相関関係、目に見えない関係として促えようとする。觀念芸術のある部分が環境芸術とだぶってくるわけです。そのだぶった部分に今日の新しい人たちが、注目すべき人が出て来ている。

D 傾向が新しいというだけで新人と規定すると問題が起きる。万博で一つの頂点へ行きついた感じが、あり、亜流ははんらんしただけに、地道な方向の面にもいい意味の照明があてられた。行動美術の田中徳喜と二紀会の小西保文(前出)活躍が目立ちましたね。

B それから県立美術館ができ、県展など本場に新人の登竜門といわれているのですが、こういう中に入ってくるにはまだまだ。今年の県展で、全くの無名ですが洋画部門の小林康男、幻想的なものを描いている人ですが、可能性を感じたのは彼一人でした。早急に判断はできませんが、注目しているという感じです。

C それと元へ戻っていったという意味で、彫刻でいいますと、和

田真澄。今迄あまり目立った動き
なさってなかったけれど、よくな
って来られた。

A 池水慶一はどうですか？

F ハブニングやっている？ 尼

崎在住で作品を発表しています。

画家とか彫刻家よりハブナーとい
いますか、おもしろいですね。

D 版画の藤原向意、どちらかと

いうと目立たない仕事ですが、い
いですよ。それに彫刻の増田正和
もよかったと思います。

編集部 工芸はどうですか。

C 姫路だけれど、織物の山本和
子はおもしろいと思う。あの人の
仕事の古さときあがったものの
モダンさはおもしろそうだ。それ
と陶芸で、市野弘之さんのおいご
さんの市野茂良、市野さんを中心
にした「彩炎」の若手グループの
一員で、今、バーナード・リーチ
の所にいるんです。やはり認めら
れて行ったのだと思います。帰っ
て来たらどうなるか、ということ
ですね。

B それと、荒木高子。年はとっ
てますけど若々しいですよ（笑）
彫陶です。本来は生花の未生流本
家の家元です。アメリカへ行って
陶器の勉強をして、帰ってきました。

F 生花の家元のジュニア・クラ
スでつくっている「ぞく」という
グループ、将来の生花界をリード

していくだろうと思いますが、あ
いいう世界は家元制ですから、ど
こまで新人といえるか難しい。

編集部 漫画では？

A 岡田淳八既出▽が光っていま
すね。同じ漫画グループで永井文
明ももう一つ、丘あつしがかなり
こなしています。

H 昨年のジャパン・アート・フ
ェスティバルに入選した矢田貝充
彦、似顔絵がうまい。

編集部 書道では？

E 書道は新人いませんね。兵庫
県の人を育てているのに和田青蜜
書作家協会の事務局長をしておら

れます。お年寄の方も多い協会を
県立美術館借りてやったり、事務
局長としてやっているということ
がたいしたものですよ。

編集部 建築へいきますと？

H 建築に関しては、やっぱり神
戸の街にロクな建物がないように
何もなんじゃないんですか。ス
タッフが一生懸命やっているとい
うことはあるけれども、建築とい
うのはなかなか一人でできるとい
うものではないしね。建築を創る
のも本当は文学なんかと同じなん
だけれど、今の建築教育は工場教育
ですからね。僕は「小説の書き方」
みたいな教え方をするんですが……
……もっとも最近建築も学校のカ
リキュラムと全然違うことを勉強
し出した。デザイン・サーヴェイ
といって古い町の街並などをトレ
スしてやりだした。そういう仕事
を十年位やって日本の町々が環境
にかなり責任を持つ気にならない
と、本当のトータルの意味での建
築家は生まれて来ないんじゃない
ですか。

G 建築になるのか歴史になるの
かちよとわからないが、兵庫高校
の名生昭雄が文部省の委託研究
で、農村舞台の調査を一人でやつ
た。この間「歴史と神戸」50号で
まとめたところです。彼の仕事で
重要な舞台が半分指定されました
からね。もうヤングではないです



水谷順介氏



小島輝正氏



赤根和生氏



佐野達賢氏

が、これだけの仕事をするには年数がかかります。

C 芦屋ルナホールの設計スタッフの一人であった橋本健治、その二年先輩で神大の助手をしている毛綱モン太、住宅雑誌にかなりユニークな教会や一般住宅が載っています。二人共、今は神戸との関係は薄いですが、可能性を持った若手といえるでしょう。

★女流新人の進出 — 文学部門

G 文学というのは仮に同人雑誌に属していて、一つのいいものを書いた。それでいけるかなと思ってもなかなかそうはいかない。勝負は長い。そこで抜群の個性を発揮するというのは、神戸だけじゃなしに日本全国どこでもむずかしい。小説では、本も既に三冊出している三枝和子。その内芥川賞のかなり有力な候補になるんじゃないですか。新潮社の新鋭シリーズにも入ってますね。

E (バイキング)を編集している広重聰もい。

G 評論の森川達也と夫婦です。

森川さんは地味な人ですが、滝野の真言宗のお寺のお坊さんで植谷雄高論とかサルトルとか、戦後の文学を熱心に行っている人です。

E まだ決め手はないが「風群」に属している下大路由佳、十七・八歳の時から書いている、才能のある人ですね。

柴田仁氏



伊藤誠氏



寺井昭子さん



富依幸雄氏



G 最近、造形美術とか音楽とか直観的な芸術の方に才能ある人が向かう傾向が強い。文学はまどろっこしいですね。一般的に感覚芸術の方に今の人走りやすいです。そういう意味から詩人の方が可能性はありますね。異色ある才能という「たうろす」の宮田恭子。詩集はまだ一冊しか出していませんが、才能からいうと抜群です。

それと詩人でもかつ、仏文学の翻訳もしている多田智満子。非常によく勉強している。最近詩集を出した中村隆も期待される。コンス

タントにやっている人で「G」の和田英子。二冊位詩集を出して、ねばり強く詩を書いている。片桐ユズルさん。今更という感じで申し訳ないですが、いい仕事をさっています。

D 評論には先程の森川達也に、神戸では松原新一(既出)に匹敵する人はまだ出て来ませんね。野口武彦(既出)が恐らく今年位アメリカから帰って来ますが、有望株。その他、ドイツ文学畑の人で池内紀。特に最近誰も手をつけてないオーストリアのクラウスの著作集10巻の半分位翻訳します。

クラウスの専門家で、そのために二、三年オーストリアに留学していました。

F 傘の会で活動している三沢玲爾。外大出身の人で今は印刷会社をやっているのですが、お父さんが中国の古い漢学畑の人でその仕事を引き継いでやっています。

C 池上忠治はどうですか。

G 美術史家ですね。まだまだお若いし入れるべきです。神大の文学部で、美術館で講演された、セザンヌの美術全集の解説とか、美術の評論分野で活躍なさっています。野口武彦さんに相当する方ですね。

★新人発掘の場がもっとほしい

C 万博に前後して外国のアーテ

イストが大勢日本にやって来たのですが、その割に地元の音楽家からの新人の擡頭はもう一つ。ここ

二、三年、発表する機会も非常に少なくなって悲劇的な状況です。その中でイタリア留学から帰ったテ

ノールの黄耀明（既出）／＼やっぱり一つの成果をもって帰られて、十

月から十一月にかけて、神戸で連続してステージを持たれた。それ

から一昨年春に歌劇「沖繩」が公演されて、素人ながら主役を堂々

とやってのけたテノールの中村はじめ、うたごえの活動の中で自分

で勉強して、ブルガリアソフィアの世界青年学生平和友好祭にも出

場。専門家と同じステージで渡りあえる異色の新人です。

D その他声楽では、関西歌劇団で安定したところで仕事をしてい

る三室堯、二期会の横田浩和。地味な人だが力を持っている。それ

に最近ヨーロッパ留学から帰って来た小村亮三。彼は大物になると

思う。

F 女性ではこの間リサイタルをした秋定典江。かなり歌える人。

B ピアノでは伊藤ルミ、南佑子伊藤ルミは東貞一さんの門下で、

最近活躍している。音楽もまだこれからという人だが伸びそうなセンスある人。その他縁の下の力も

ちみただが、伴奏の仕事でいい仕事をしている鎌田郁子。

C バイオリンは以前として鈴江苑生（既出）／＼高橋美保子（既出）という感じがする。

D 特異な存在でテレマン・アンサンブルのフルート、北山隆がい

ます。まじめすぎるくらい演奏家だが関西の若手ではトップレベル。一昨年の秋、大阪文化祭賞、

音楽クリティック・クラブ賞をとっています。

C 朝比奈隆氏の息子さん朝比奈千足（クラリネット）もドイツから帰って来ましたね。将来はお父

さんの後継いで指揮に移られる感じもありますが。

F 仕事は大阪ですが、大フィルのクラリネット奏者で、副指揮者のような形の泉庄左衛門、武庫ア

カデミーという室内楽のコンサートをつくって、ルナホールで演奏

したりしています。とにかく音楽は新人の登竜門が誠に少ない。そ

れと音楽ジャーナリズムがあつてないようなもの、もっと地元の新人をこまめにとりあげて、伸ばし

ていってほしいと思う。

編集部 ポピュラーはどうですか。

C 若い人のフォークなどのグループ、今は低迷状態ですね。

E そうですね、その中で神大に「竜の眼の涙」というフォーク・グループがあり、ベッツィ&クリ

スの公演の時、共演したのですが、

凄くうまさでしたよ。中村茂隆さんのお弟子さんです。

★新しい動きに期待したい

—— 演劇芸能部門

F 商業演劇では、鳳蘭の「星の牧場」が非常によかった。

D 関西の新劇運動がどっち向いてるんやという、まっとうなものは兵庫県だけに残っているんじ

やないか、大阪の記者クラブのメンバーなんか最近そういう評価をいつてるんです。今迄勝手なこ

とをアマチュア精神丸出しでやっていたのを、やっぱり演劇は社会的な存在や、ということと少なく

とも今、ようやく大阪や京都に負けなくなった。という意味で何人かは評価できるんです。一昨年ま

でサークルだといっていたのが今年から劇団になった兵芸、これが一番の成果を挙げたのでは……。

姫路で一般公演をやってから各地でしているのですが、始めて神戸

から出て行っています。それも劇団が来てご当地でやりますというアイ

サツのやり方でなく、青年団などいんな地元の人たちと徹夜してでも話し合

ってでも話し合って、皆で芝居を創り出そうという作業をかなりしてい

ねいにやっている。超満員ですよ。お客集められないような公演やつ

たら、よう幕あけませんといわれる地域演劇は日本列島でそうあり

りませんよ。渡辺純二代表で、制

作担当の森井南海男を中心に。ほかでは劇団四紀会の新木祥之。兵庫県劇団評議会の事務局長で四〇歳近くですが意識的にはフレッシユ。やっと神戸の劇団をとりまとめることができる人が生まれてきた。

H もう一つ、毛色の変っているのが浜田義則と李啓司のコンビ。芝居する時にどこの劇団の人でも構わない、寄っといでというやり方をやる。「日本の青春」というのを今年やりましたね。大低四〇〜六〇人位の芝居です。参加した神大の学生なんかも芝居が終ったらハイサヨナラなんです。東京というプロデューサー・システムではなく、次元の低いところでモメたり、ヤヤコシイことは省こうというやり方です。だから二人だけになっても芝居やめへんといえるわけです。創造的なところでは評価しませんが、いろんな事を触発してるのは事実なんです。

E アングラは評価が分かれるでしょうが、たまたまやってる人が知識として前のことを知らずに新しいといっているというのと違いますね。一人だけ京大出て、大阪で「劇団日本維新派」をやっている藤野勲。京阪神のアングラでは彼ぐらいですね。

C 舞踊では、一つは他の地域と比べて、神戸はバイタリティが若

い人たちの間に芽生えてきたし、それがあるということ、もう一つは神戸人による何か新しいものを創りましょうということ。そういう自覚が生まれて来たのは何に原因しているかというと、兵庫県芸術祭、文化祭というのが、今迄地元に見向きもしなかったのが、非常に不満ですけれども、少しこちらに向いてきた。そしてそれに合わせて伸びていくという動きが見えます。

日舞の新人で、この二年間非常にクローズアップされて来たのが若柳吉由二、林啓二。この人は与一の分家で林与一劇団で活躍しています。それから花柳芳五三郎さんの門下で五三豊、五三輔。「お夏」「鶯娘」が良かった。それに若柳吉金吾さんの娘さんの若柳吉里、藤間縁寿郎の二人で踊った「三輪の神杉」は推奨する作品です。花柳芳次さんの門下の芳圭次、藤間莉佳子（既出）、藤間妙寿らのジュニアが伸びて来ましたね。

E バレエの方へ行きますと、フランスの二〇世紀バレエに一九六四年から留学していた浅川仁美、今年の夏帰って神戸で踊りました。そして今岡バレエの溝下志朗、東京バレエ団留学中で全国を廻っています。神戸で二年の間伸びたのは、渡バレエ団の覚心啓子、大沢バレエ団の平松美代子、馬場バ

レエ団の石井多幾子、島村バレエ団の大橋最子、樋口恵子（既出）、貞松バレエ団の久保内隆、井勝、スペイン舞踊の水上佳英子らが中心になって若々しくやってゆくでしょう。

F 二〇世紀バレエへ留学していた覚心裕嗣もつい最近帰国、これからが期待されます。この後、啓子も今年二〇世紀バレエへ行くそうです。

編集部 その他ジャンルとは関係なくどうですか。

B 将棋では、内藤国雄門下の若松政和、新人王をとったんです。

A 内藤さん一門は関西の大部屋になりましたね。

C あそこでは森安兄弟も有望。弟は五段ですが、八段までいけるでしょう。

H 人形の竹村まこともおもしろい。この間リサイタルやりましたが、素人っぽいところが残っていてそれが一種の魅力になっていますね。もっと拡がりそうですね。

編集部 この頃、グループ活動で

ゲリラ的なのがいるようですが……
D 磯本治昭がいますね、映画運動から最近の赤根和生・河口龍夫さんの対談など、文化活動をプロデュースしている。二〇歳ちょっとのあの世代ならではの感じがしますね。
△文責・編集部▽

神戸っ子
フレッシュ
クリエイター
選考結果

■美術部門

△造形▽

河口龍夫

植松奎二

斉藤 智

田中 薫

奥田善己

神戸大学美術科

△彫刻▽

和田真澄

増田正和

新制作
行動美術

△洋画▽

田中徳喜

南 和好

山口芳生

竹村和夫

小西保文

大西敏己

松下元夫

行動美術
行動美術
新制作

新制作

新制作

神戸二紀会

神戸二紀会

神戸二紀会

神戸二紀会

△漫画▽

丘あつし

矢田貝充彦

神戸市役所広報
課



植松 奎二



和田 真澄



荒木 高子



丘あつし



木村 勲生



大柱 公人



黒木 直人



橋本 健治



毛綱モン太



森井 禎二



山口 清



下大路由佳



石上ひろみ



多田智高子



山本 良明



浜崎素粒子



伊藤 ルミ



△工芸▽

藤原向意 版画

山本和子 織物

市野茂良 陶芸

荒木高子 陶芸

△ハブナー▽

池水慶一

△書道▽

和田青篁

兵庫県書作家協
会

△写真▽

一之瀬元子

森井禎二

山口 清

△デザイン・建築▽

木村勲生 木村デザイン

大柱公人 DAC

黒木直人 木村デザイン

平位友人 山陽電車宣伝部

橋本健治 板倉建築事務所

毛綱モン太 神戸大学建築

学科助手

■文学部門

△創作▽

三枝和子

広重 聡 バイキング

下大路由佳 風群

石上ひろみ 神戸市民同友

会

△詩▽

片桐ユズル 松蔭女子大教

授

多田智満子 たうろす

宮田恭子 たうろす

和田英子 G

喜谷繁暈 竜

中村 隆 輪

△短歌▽

秋岡 麗 ポトナム

中村暁子 鴉

野瀬昭二 高嶺

△俳句▽

寿賀義治 渦

仲上隆夫 海程

浜崎素粒子 椰子

山本良明 椰子

△評論・文学▽

池内 紀 ドイツ文学

池上忠治 美術史

三沢玲爾 中国文学

森川達也 評論

野口武彦 評論

■音楽文門

△ピアノ・器楽▽

伊藤ルミ ピアノ

南 佑子 ピアノ

鎌田郁子 ピアノ

北山 隆 フルート・テレ

マンアンサンブル

朝比奈千足



中村はじめ



秋定 典江



横田 浩和



三室 堯



小村 亮三



田島 久美



上原 まり



皆川 修一



浜田 義則



森井南海男



植田 功



新木 祥之



恵田 卓



大石 洋子



藤野 勲



藤井 楽人



橋 保向



朝比奈千足 クラリネット

鈴江苑生 バイオリン

高橋美保子 バイオリン

△声楽▽

黄 耀明 テノール

田原祥一郎 テノール

中村はじめ テノール・神

戸青年合唱団

秋定典江 ソプラノ

横田浩和 バリトン・二期

会

三室 堯 バリトン・関西

歌劇団

小村亮三 バリトン

△指揮▽

泉 庄左衛門 大阪フィル

△ポピュラー▽

竜の眼の涙 フォーク

前川昌子 ハモンド

■演劇・芸能部門

△新劇▽

浜田義則 劇団神戸

李 啓司 劇団神戸

渡辺純二 兵芸

森井南海男 兵芸・制作

植田 功 兵芸・演出

新木祥之 劇団四紀会

大石洋子 劇団四紀会

恵田 卓 劇団四紀会・効

果

皆川修一 道化座

吉村信夫 神戸自由劇場・装置

藤野 勲 劇団日本維新派

△芸能・放送▽

鳳 蘭 宝塚歌劇

田島久美 宝塚歌劇

上原まり 宝塚歌劇

小山乃里子 フリーアナウンサー

△能▽

藤井 楽人 観世流能楽師

橋 保向 観世流師範

下川 宣長 観世流師範

渋井 義寿 観世流師範

△日舞▽

若柳吉由二 吉玉二社中

若柳吉里 吉金吾社中

花柳五三豊 芳五三郎社中

花柳五三輔 芳五三郎社中

花柳芳圭次 芳次社中

藤間 緑寿郎 緑久寿社中

藤間 妙寿 伊勢文社中

林 啓二 楽壇社中

藤間 莉佳子 秀晃社中

△洋舞▽

覚心 裕嗣 渡バレエ

覚心 啓子 渡バレエ

浅川 仁美 渡バレエ

平松 美代子 大沢バレエ

下川 宣長

渋井 義寿

小山乃里子

竹村まこと

若柳吉由二

若柳 吉里

花柳五三豊

花柳五三輔

花柳芳圭次

藤間 緑寿郎

藤間 妙寿

覚心 裕嗣

覚心 啓子

平松 美代子

浅川 仁美

加藤 清子

水上 佳英子

磯本 治昭

大橋 最子 島村バレエ

樋口 恵子 島村バレエ

加藤 清子 今岡バレエ

広瀬 有加子 貞松バレエ

水上 佳英子 伴阿部舞踊研

究所

△囲碁・将棋▽

若松 政和 四段

森安 正幸 四段

森安 秀光 五段

△その他▽

竹村まこと 人形

磯本 治昭 グループ72

★フレッシュ・クリエータ

―選出にあたっては、座談会の選考結果を主体に、各界の推選を加え、編集部で最終決定させて頂きました。△順不同▽

尚、お写真は前回に選出された方は除外した中から無作意に掲載させて頂きました。

*

*

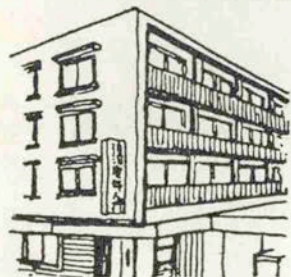
こんにちは赤ちゃん



芦屋市清水町8の12/川下展夫君

完全看護★冷暖房完備★病院前駐車可能

芦屋 柿沼産婦人科



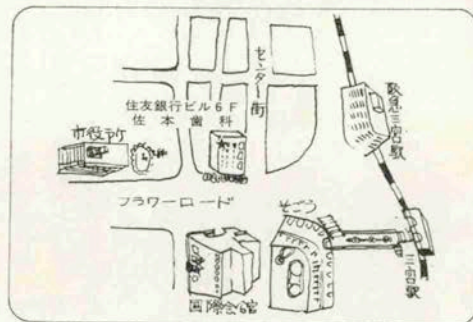
芦屋市大槻町1番18号
国道芦屋川電停東50米(明治生命南)
☎ 芦屋 (0797) 31-1234 代表

佐本 歯科

Tel (078)331-6302~3

小児歯科

一般歯科



センター街東角・サンチカ入口
住友銀行ビル6階

〒650 生田区加納町5丁目39
tel 331-6302・6303